

<ライフステージ別の使い方例>

第1ステージ

【一緒期】

パパ/39歳(会社員) ママ/37歳(育休中)
姉/5歳半(保育園) 弟/6ヶ月(乳児)

独立の個室を設けず、住まい全体を家族みんなの空間に。可動収納で2つの洋室をつなげて子どもたちのプレイルームやお昼寝部屋に。引戸も開けてリビング・ダイニングから見えるようオープンにします。

<引戸を開けて1ルームとして使用>



イメージイラスト



5年後

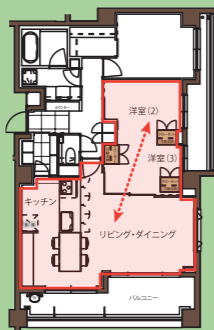
第2ステージ

【移行期】

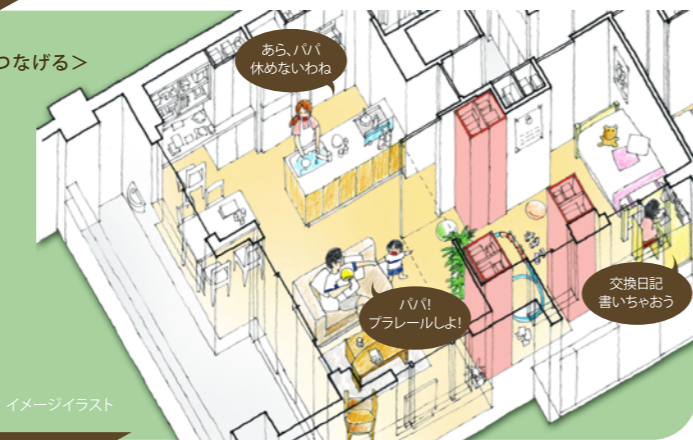
パパ/44歳(会社員) ママ/42歳(会社員)
姉/10歳(小学校5年生) 弟/5歳半(保育園)

家族の成長にともない、可動収納などで洋室を少しずつ仕切っていきます。上の子が徐々に自立していくためのスペースづくりを。下の子がまだ小さいので、パパとママの目が届くよう引戸はオープンにしたままにします。

<1ルームを可動収納でルーズにつなげる>



イメージイラスト



5年後

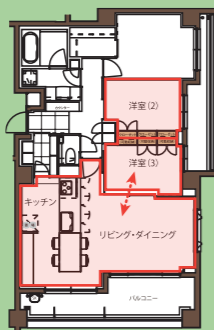
第3ステージ

【分散期】

パパ/49歳(会社員) ママ/47歳(会社員)
姉/15歳(高校1年生) 弟/10歳(小学校5年生)

子どもたちも自立はじめてきたので、プライバシーをもたせ洋室を2つの独立した部屋に。上の子には専用の個室を、下の子は引戸のある部屋でときにはオープンにしたリクローズしたりを使い分けます。

<時には引戸を閉めて、可動収納で3ルームに>



イメージイラスト



SUNNIO/シンプルで、デスクからベッドまで多数のバリエーションを備えたシリーズです。子どもたちの成長に合わせた様々なニーズを満たします。

EHON/ロッキングチェア 子どもたちが大好きな絵本を、親子のコミュニケーションツールとして考え、デザインされたリビング家具。

ACTUS/子ども家具

http://www.actus-interior.com/actuskids/

※これらのグラフや表は、旭化成オリジナル調査結果(共働き家族研究所モニター調査)から作成したものです。



子ども部屋について
—子ども部屋の作り方のヒント—

子ども部屋をつくったら... 『自分の物を自分で管理・収納出来るようになってほしい』、『成長に応じて部屋のレイアウトや間取りを変化させたい』。ライフステージや子ども部屋の有無によって、親子のコミュニケーションはどのように変化するのでしょうか? 子ども部屋に適した、インテリアや家具をご紹介します。

子ども部屋はいつ頃からあるの?
戦前の日本は、家族が寝食一体型のライフスタイルを主体としていたので、朝起きると布団をたたみ、そこにちゃぶ台を出して食事し、それ以外の時はそのちゃぶ台が色々な机として機能する...というものでした。

現在の子ども部屋の原型は、もともと戦後間もなくアメリカから入ってきました。家族のみんなが集うリビング、家族と一緒に料理や食事が出来るダイニングやキッチン、そして、個室です。戦後の日本人にとっては夢のようなライフスタイルとして子ども部屋も広がっていきました。

子ども部屋の設計・インテリア計画 家具の組み立ては、パパの出番
子ども部屋についての関心の多くは、「自分で管理できる収納」と「ライフステージに応じた可変性」でした。多くの方が、「子どもが自分の物を管理する場所」として捉え、「成長に伴って機能が変化する場所」と意識しています。その中で、徐々に子どもが自分で出来ることを増やし、自立してけるように配慮しています。

また、ご主人と奥様には、若干の意識の違いが感じられます。まず、「関心があるこ

と」では、ご主人は「快適な環境」を最も支持、奥様と比べて20%以上も上回り、「出来るだけ広く」についても、奥様よりやや関心があります。子ども部屋の快適な環境や広さにこだわるのは、ご主人のようです。

次に、「やってみよう」ということでは「家具を選ぶ」「家具の配置を決める」は奥様と同様、比較関心が高く、これと並んで「家具を組み立てる」にも関心があります。フリーアンサーでも「家具の組み立てはお父さんの役割」と意識。これに比べ、「ステッカー」「ペイント」「スイッチプレート」の交換などは奥様の方が関心を寄せています。

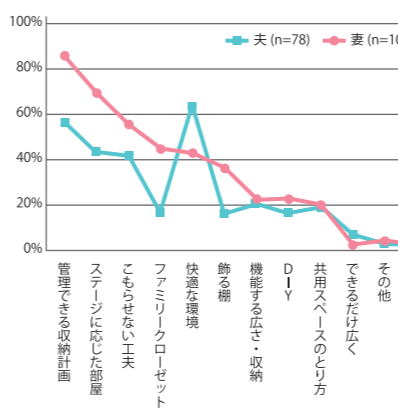
子ども部屋づくりをする際、家具に関することはお父さんに相談し出番をつくらせると、親子で楽しめる場面が広がりますね。

子どもの年齢による変化
子どもが幼いうちは、可愛らしい時代を親子一緒に楽しむ様子も見受けられます。買い替えを想定して、可愛らしい色づかいの家具やカーテン、小物を用意し、成長した子どもへの好みを反映したインテリアにする方も増えているようです。小さな子ども向けにIKEA・ACUTUSをはじめとするリーズナブルな組立家具が人気なのは、そうしたニーズもあるのでしょうか。

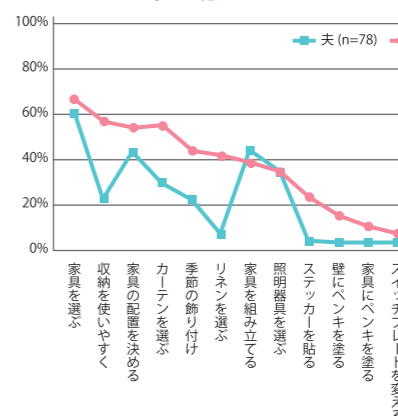


ACTUS-VARIOシリーズ

子ども部屋について関心があること



子ども部屋でやってみたいこと



フリーアンサーを見ると、「一緒に家具やカーテンを選びたい」「空想が広がる様な楽しい部屋にしたい」「お姫様テイストのラブリいな部屋にしたい」など夢があふれています。親子で、家具やカーテンを選んだり、組立作業をしたり、一緒に部屋の使い方や片付けの方法を考えたり...こうした親子の時間が、しつけと共に、伝承の機会と捉えられているように感じました。

子どもが成長すると、自分の好みをしっかり主張するようになり、母の選んだ可愛い柄のカーテンを小遣いで買い替え...ちよつと寂しいけれど、成長のあかしです。